

ごあいさつ



東京YMCA 賛助会会長
野村ホールディングス株式会社
名誉顧問

氏家 純一

2018年も振り返れば様々な出来事がありました。2月に行われた第23回冬季五輪平昌大会では、日本は金4、銀5、銅4の計13個のメダルを獲得。1998年長野大会の計10個を上回り、冬季で過去最多を記録。フィギュアスケート男子では、羽生結弦選手が右足の負傷を乗り越えて連覇を達成されました。女子スピードスケートでは、小平奈緒選手が500メートルで金。試合後、友人で銀メダルとなった韓国の李相花選手と健闘をたたえ合う姿が感動を呼びました。明るいニュースから一転し、7月には西日本の地域に記録的な豪雨が襲いました。死者220名を超え河川の氾濫や冠水、土砂崩れなどが広域で同時多発的に起き被害を拡大し避難指示・勧告の対象は最大860万人を超えました。この災害の直後より日本全国YMCAは協力して支援活動を実施しました。東京YMCAでは都内各地で街頭募金を実施しました。また、広島YMCAが主催した「避難した子どもたちを対象としたキャンプ」へスタッフ、ボランティアリーダーを派遣し被災者の支援活動において重要な役割を果たしました。賛助会では12月に西日本豪雨災害チャリティーゴルフを開催し多くの賛助会企業の皆様にご参加と景品の寄贈を頂きました。また、この他に賛助会会員企業より支援募金、街頭募金におけるチラシ作成協力を頂きました。賛助会会員の皆様から寄せられた多くのご支援がこの働きを力強く支えて頂きました。改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

2020年にはいよいよ東京オリンピックが開催されます。今、日本社会はオリンピックに向って希望の光を繋げようとしています。

東京YMCAは青少年の限りない成長を願い、様々な社会課題に向き合い、隣人へ奉仕するという使命に基づく働きを創立より139年に渡り果たしてきました。その働きは、いつの時代においても使命に賛同する方々の尊い志によって担われ支えられてきたことはご存じのとおりです。

私たち企業は、このYMCAの働きに力を寄せていくことでこれからも希望の光を灯し続けられる社会的責任を果たしていきたいと願います。この尊い志の輪に連なる賛助会会員の皆様には、これまでのご支援に感謝するとともに、引き続き東京YMCAの働きにご支援いただくことをお願い申し上げます。



公益財団法人 東京YMCA
代表理事・総主事

伊 藤 淳

日頃より、東京YMCAの運動と諸事業に格別なるご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。この一年も賛助会員の皆様には温かいお励ましと力強いご支援をいただき、お陰様でYMCAの使命と理念に基づいた働きを着実に進めることができました。

「2016-2018年度東京YMCA中期計画」の最終年度でありました昨年度は、法人組織の基盤を強化するための様々な改革に着手し、その一環として山手会館のリニューアルや、世田谷区での新しい認可保育園の開園準備、人材育成のため様々な研修へのスタッフ参加の促進などを果敢に進めてまいりました。

また、全国で推進している日本YMCA中期計画の中核をなす「YMCAブランディング・プロジェクト」では、外見적인ブランドロゴや、ブランドスローガンの刷新に加えて、YMCAの行っているすべてのプログラムを年代別、目的別に分類し、社会に対してわかりやすくYMCAの約束した価値＝ブランドを伝える試みを行っております。これらにより、全国のYMCAが外見も内面も一つとなり、もう一度私たちの役割や使命を根源から問い直し、社会貢献団体としてふさわしい運動体として変革していく所存であります。

未来を担う子どもたちや青少年が、夢や希望を抱くことができる平和な社会と地域にするため、一步一步確実に計画を進め、柔軟にチャレンジしてまいります。そのために賛助会員の皆様のお力が不可欠です。引き続きのご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。

賛助会役員

会 長	氏家 純一	野村ホールディングス株式会社 名誉顧問
名誉会長	橋本 徹	みずほフィナンシャルグループ名誉顧問
	北城 恪太郎	経済同友会 終身幹事・日本アイ・ビー・エム株式会社名誉相談役
理 事	高橋 宏典	AIG損害保険株式会社 執行役員兼CDO
理 事	茂木 友三郎	キッコーマン株式会社 取締役 名誉会長 取締役会議長
理 事	見目 信樹	株式会社日清製粉グループ本社 取締役社長
理 事	大谷 和彦	株式会社ニュー・オータニ 代表取締役社長
理 事	五十嵐 素一	株式会社白洋舎 代表取締役会長
理 事	榊田 雅和	三菱商事株式会社 代表取締役常務執行役員
理 事	飯島 延浩	山崎製パン株式会社 代表取締役社長

歴代賛助会会長

初 代	安川 第五郎	(元日本原子力発電 会長)
第 2 代	田實 渉	(元三菱銀行)
第 3 代	駒井 健一郎	(元日立製作所)
第 4 代	小山 五郎	(元三井銀行)
第 5 代	佐波 正一	(元株式会社東芝 特別顧問)
第 6 代	橋本 徹	(みずほフィナンシャルグループ 名誉顧問)
第 7 代	北城 恪太郎	(経済同友会 終身幹事・日本アイ・ビー・エム株式会社名誉相談役)
第 8 代	氏家 純一	(野村ホールディングス株式会社 名誉顧問)

2019年度 表彰賛助会員

継続50年	株式会社木村洋行 株式会社小学館 日本電波工業株式会社 パナソニック株式会社	新入会員	株式会社AOKI 株式会社teco 株式会社ライセンスアカデミー 株式会社田中屋 株式会社喜久多 一般社団法人マザーリングマネジメント協会
継続25年	清水井産業株式会社 理想科学工業株式会社		
継続20年	京王観光株式会社 東京南支店 株式会社集英社 株式会社トップナッチツーリスト		
継続15年	株式会社ツカサ・エンタープライズ		

会費・ご寄付によるご支援

2018年度も東京YMCAの諸活動にご支援とお励ましをいただき、心より感謝申し上げます。

個人会費・賛助会費

2018年度個人会費 ¥13,015,053 賛助会費 ¥9,830,000

YMCAの使命・趣旨にご賛同いただいた個人、企業、団体に、会費によるご支援をいただいております。以下の活動を中心に、東京YMCAの公益活動に用いました。

障がい児支援

知的障がい ADHD児 他

不登校児支援

liby (居場所活動)

ユースボランティア育成

子ども達のキャンプリーダー 他

国際協力活動

バングラデシュ教育支援 他

災害復興支援

東日本・熊本大地震 他

その他の公益活動

地域支援活動

フレンドシップファンド

2018年度募金額 ¥852,117 支援実績9名

経済的に困難なご家庭の子どもや養護施設の子もたちに、キャンプなどのYMCAの活動参加費を援助し、心身の豊かな成長に繋がるかけがえのない体験を提供することができました。

国際協力募金

2018年度募金額 ¥2,756,121

バングラデシュの働く子ども達への奨学金など、アジアの子ども達の教育支援をはじめ、世界YMCAのネットワークを生かした国際協力活動、留学生支援、青少年育成事業に用いました。



東日本大震災復興支援募金

2018年度募金額 ¥1,933,635

東日本大震災と原発事故によって被災した石巻地域、及び福島県の被災者を支援するため、ワークキャンプや仮設住宅高齢者支援、子どもプログラムなど、多様なボランティア活動を行いました。



熊本大地震緊急支援募金

2018年度募金額 ¥754,522

2016年4月14日に熊本でマグニチュード7.3を含む連続地震がおき、直後から熊本YMCAが運営する2つの避難所にスタッフを派遣しました。全国YMCAと協力して支援活動を継続して行っています。



西日本豪雨災害支援募金

2018年度募金額 ¥7,503,093

2018年7月に西日本を襲った記録的な豪雨の直後より日本全国のYMCAは団結して募金活動と被災者支援活動に着手。賛助会として12月5日にチャリティーゴルフを通し支援募金活動を行いました。

インターナショナル・チャリティーラン

2018年度支援額 ¥5,476,078

障がい児支援を目的とした駅伝大会で、32回目となった2018年度は49チーム、益金は障がい児を支援するプログラムのために用いさせて頂きました。



遺贈による寄付制度

遺言書により、東京YMCAに財産の一部を寄付する制度で、提携している信託銀行が、法に則り遺言書作成、保管、実現を手伝います。